



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社 久世 上場取引所 東
 コード番号 2708 URL https://www.kuze.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)久世 真也
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画室長 (氏名)市川 明夫 (TEL)03(3987)0018
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	16,159	△51.3	△1,661	—	△1,510	—	△1,521	—
2020年3月期第2四半期	33,184	2.3	△52	—	27	△63.1	42	△41.6

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △1,408百万円 (—%) 2020年3月期第2四半期 176百万円 (179.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△411 20	—
2020年3月期第2四半期	11 48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	17,386	3,904	22.5
2020年3月期	18,060	5,335	29.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 3,904百万円 2020年3月期 5,335百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0 00	—	6 00	6 00
2021年3月期	—	0 00			
2021年3月期(予想)			—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2021年3月期の配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	40,500	△37.1	△2,200	—	△2,000	—	△2,100	—	△567	36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	3,882,500株	2020年3月期	3,882,500株
2021年3月期2Q	181,118株	2020年3月期	181,118株
2021年3月期2Q	3,701,382株	2020年3月期2Q	3,701,382株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する安定的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、昨年以來続く消費税増税による国内消費の低迷に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「人が集まる場所」での消費行動の抑制や雇用環境の急激な変化など、飲食業や旅行産業等のサービス産業を中心に経済環境に大きな影響が生じました。

弊社が事業展開の中心に据えております三大都市圏の外出産業におきましても、6月以降の感染拡大に伴う飲食店の営業制限や、外出・接待への抑制が消費行動に影響を与え、事業環境に大きな影響が生じました。

このような状況の中、中期経営計画「第4次3ヶ年中期経営計画」の最終年度として新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業績を立て直すべく、収益改善へのあらゆる施策に対し全社一丸となり取り組んで参りました。同時に、お客様に対し衛生用品やテイクアウト、デリバリーといった新しい営業スタイルへ必要な商材・情報の提案や、アプリをはじめとする人と人が接さずにお客様へ情報提供できるシステム環境整備などDX化の推進を行い、更にコロナ禍でも影響を受けにくい老健施設やスーパー、惣菜店などの日常食の分野への取引深耕等を積極的に推進してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は161億59百万円（前年同期比51.3%減）、営業損失は16億61百万円（前年同期は52百万円の営業損失）、経常損失は15億10百万円（前年同期は27百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は15億21百万円（前年同期は42百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(食材卸売事業)

当セグメントにおける消費動向は、第2四半期に入って以降回復傾向はみられるものの、新型コロナウイルス第2波の感染拡大、在宅勤務の定着、インバウンド需要の減少が続きました。このような状況にあって、比較的好調を維持している業態への販促活動を推進するとともに、物流経費をはじめとする各種経費の抑制に努めました。

このような結果、売上高は145億75百万円（前年同期比52.9%減）、セグメント損失（営業損失）は11億80百万円（前年同期は2億77百万円のセグメント利益）となりました。

(食材製造事業)

当セグメントにおきましては、主に連結子会社キスコフーズ株式会社が食材製造を行っております。弁当・惣菜製造業者向けの販売は、大きな落ち込みはなかったものの、一般外食店・ホテル・結婚式場向け販売は大きく落ち込みました。これに対して製造費用や運賃・保管料等の抑制に取り組んでまいりました。

このような結果、売上高は15億90百万円（前年同期比29.1%減）、セグメント損失（営業損失）は43百万円（前年同期は1億52百万円のセグメント利益）となりました。

(不動産賃貸事業)

当セグメントにおきましては、主に連結子会社を対象に不動産賃貸を行っております。当事業の売上高は69百万円（前年同期比1.2%減）、セグメント利益（営業利益）は33百万円（前年同期比31.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ6億73百万円減少し、173億86百万円となりました。これは主として投資有価証券が93百万円増加し、現金及び預金が6億48百万円、受取手形及び売掛金が2億55百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ7億56百万円増加し、134億82百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が9億90百万円、未払金が1億76百万円減少し、短期借入金15億50百万円、長期借入金が4億80百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ14億30百万円減少し、39億4百万円となりました。これは主として利益剰余金が15億44百万円減少したことによるものです。この結果、自己資本比率は22.5%（前連結会計年度末29.5%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前年同四半期と比較して6億円減少し、25億33百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金は、前年同四半期と比較して20億35百万円減少し、25億4百万円の支出となりました。これは税金等調整前四半期純損失が15億67百万円、仕入債務の減少額が9億88百万円であったことが主たる要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金は、前年同四半期と比較して1億24百万円減少し、1億65百万円の支出となりました。これは有形固定資産の取得による支出が1億86百万円であったことが主たる要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金は、前年同四半期と比較して27億37百万円増加し、21億1百万円の収入となりました。これは短期借入金の純増減額が15億50百万円、長期借入れによる収入が15億80百万円、長期借入金の返済による支出が9億86百万円であったことが主たる要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期における連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により、業績を合理的に算定することが困難であったことから未定としておりましたが、現時点において入手可能な情報や予測等に基づき、通期連結業績予想を公表することといたしました。

詳細につきましては、本日公表の「業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,689	3,040
受取手形及び売掛金	5,039	4,784
商品及び製品	2,382	2,371
原材料及び貯蔵品	211	274
その他	613	588
貸倒引当金	△43	△18
流動資産合計	11,892	11,040
固定資産		
有形固定資産	2,417	2,467
無形固定資産	476	532
投資その他の資産		
投資有価証券	1,703	1,797
その他	1,700	1,698
貸倒引当金	△131	△150
投資その他の資産合計	3,273	3,346
固定資産合計	6,167	6,345
資産合計	18,060	17,386
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,232	6,242
短期借入金	510	2,060
1年内返済予定の長期借入金	1,224	1,336
未払金	982	805
未払法人税等	97	13
賞与引当金	232	62
その他	339	289
流動負債合計	10,619	10,810
固定負債		
長期借入金	1,207	1,687
役員退職慰労引当金	193	193
退職給付に係る負債	240	242
資産除去債務	86	86
その他	379	460
固定負債合計	2,106	2,671
負債合計	12,725	13,482

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	302	302
資本剰余金	253	253
利益剰余金	4,449	2,905
自己株式	△151	△151
株主資本合計	4,853	3,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	567	653
繰延ヘッジ損益	△2	0
為替換算調整勘定	△75	△51
退職給付に係る調整累計額	△8	△6
その他の包括利益累計額合計	481	594
純資産合計	5,335	3,904
負債純資産合計	18,060	17,386

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	33,184	16,159
売上原価	26,494	12,844
売上総利益	6,690	3,315
販売費及び一般管理費	6,742	4,976
営業損失(△)	△52	△1,661
営業外収益		
受取配当金	27	18
受取事務手数料	43	16
物流業務受託収入	19	9
雇用調整助成金	—	131
その他	45	57
営業外収益合計	136	233
営業外費用		
支払利息	5	13
支払手数料	—	20
物流業務受託収入原価	29	22
貸倒引当金繰入額	—	20
その他	21	6
営業外費用合計	56	82
経常利益又は経常損失(△)	27	△1,510
特別利益		
投資有価証券売却益	54	—
特別利益合計	54	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	49
固定資産除却損	0	0
減損損失	—	7
特別損失合計	0	57
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	82	△1,567
法人税、住民税及び事業税	35	3
法人税等還付税額	—	△44
法人税等調整額	1	△4
法人税等合計	36	△45
四半期純利益又は四半期純損失(△)	45	△1,521
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	42	△1,521

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	45	△1,521
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	205	85
繰延ヘッジ損益	△2	2
為替換算調整勘定	△73	23
退職給付に係る調整額	1	2
その他の包括利益合計	130	113
四半期包括利益	176	△1,408
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	174	△1,408
非支配株主に係る四半期包括利益	1	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	82	△1,567
減価償却費	129	159
のれん償却額	21	21
減損損失	—	7
雇用調整助成金	—	△131
固定資産除却損	0	0
投資有価証券売却損益(△は益)	△54	—
投資有価証券評価損	—	49
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4	△5
賞与引当金の増減額(△は減少)	36	△170
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	8	2
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△20	0
受取利息及び受取配当金	△29	△20
支払利息	5	13
売上債権の増減額(△は増加)	717	251
たな卸資産の増減額(△は増加)	△236	△48
その他の資産の増減額(△は増加)	△5	83
仕入債務の増減額(△は減少)	△792	△988
その他の負債の増減額(△は減少)	△253	△237
小計	△386	△2,580
利息及び配当金の受取額	27	19
利息の支払額	△4	△16
雇用調整助成金の受取額	—	100
法人税等の支払額	△104	△67
法人税等の還付額	—	39
営業活動によるキャッシュ・フロー	△469	△2,504
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△15	△15
定期預金の払戻による収入	—	93
有形固定資産の取得による支出	△166	△186
無形固定資産の取得による支出	△92	△22
投資有価証券の取得による支出	△36	△21
投資有価証券の売却による収入	66	—
その他	△45	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△290	△165
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	1,550
長期借入れによる収入	150	1,580
長期借入金の返済による支出	△659	△986
リース債務の返済による支出	△11	△19
配当金の支払額	△43	△22
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△71	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△636	2,101

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,408	△570
現金及び現金同等物の期首残高	4,542	3,103
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,134	2,533

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社グループが事業活動の中心としております外食・中食市場は、2月下旬以降、新型コロナウイルス感染症の拡大が進み、東京都知事による「外出自粛要請」や政府の「緊急事態宣言」発出に伴う営業自粛要請もあって、客数の急減に見舞われました。「緊急事態宣言」解除後、やや回復の兆しが見えたものの、6月下旬以降も感染症の拡大は続き、当社主要地盤である東京23区においては、東京都より9月15日迄の時短営業要請が出されるなど大きな影響を受け、その後も先行きの不透明な状況が続いております。

その結果、当社グループにおいては、第1四半期に続き当第2四半期も業績面で大きな影響を受けました。現時点では感染症拡大の終息が見通せず、これから冬場を迎え影響の広がりも不透明な中、当社が把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、当該業績の回復が来春以降になると仮定した将来の課税所得に基づく繰延税金資産の回収可能性及び将来のキャッシュ・フローに基づく固定資産の減損会計等の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響については不確実性が大きく、仮定と異なった場合、翌連結会計年度の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業	
売上高				
外部顧客への売上高	30,940	2,241	2	33,184
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16	—	68	84
計	30,956	2,241	70	33,269
セグメント利益	277	152	49	479

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	479
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	△536
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△52

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業	
売上高				
外部顧客への売上高	14,567	1,590	1	16,159
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	—	67	76
計	14,575	1,590	69	16,235
セグメント利益又は損失(△)	△1,180	△43	33	△1,190

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△1,190
セグメント間取引消去	5
全社費用(注)	△476
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△1,661

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。